

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表 2022年度

法人名	社会福祉法人藤雪会	代表者	理事長又木京子	法人・事業所の特徴	利用者一人ひとりの人格を尊重し、利用者がおのこの役割をもって、家庭的な環境の下、安全で安心できる日常生活を送ることができるようなサービスを提供する。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ゆったり	管理者	滝澤海美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	人	人	2人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	少人数でも、会議やミーティングを行い、利用者理解を深める。必ず利用開始までに基本情報を把握する。	コロナ禍で会議はほとんど開けなかったが、朝のミーティングや反省会、ケアマネの資料を利用して、利用者理解を深めた。	家族や支援者の意向が優先されてしまうと思い込んで観察してしまうので、フラットな気持ちでありのままの本人の様子を観察する。	コロナ後には会議も開催しやすくなるので、感染予防に留意しながら、職員みんなが利用者の様子を観察し、利用者理解を深められるようにしていきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き、ホームページやあさひだよりで、ゆったりをアピールする。必要な改修や修繕を行っている。	ホームページは毎月更新した。傷んだ設備や老朽化した機器については適宜改修、更新し、快適に過ごしていただけるようにした。	施設が小規模多機能型居宅介護だけではないので、地域に分かりづらい。デイサービス、居宅介護、ヘルパー、配食サービスがあり、介護福祉の起点であることをアピールする。	ゆったりのパフレットを作成するとともに、さらに広報の工夫をしていきたい。
C. 事業所と地域のかかわり	日々の散歩などを通して、近隣とのふれあいを大切に行う。地域ボランティアさんを少人数で受け入れていく。	コロナ禍で地域の行事が中止され、あまりかかわれなかった。回数は少なかったが、ボランティアさんとの交流には参加できることもあった。	コロナ禍で地域の行事がほとんど開催されなかった。かかわりの機会がなかったのではないかな。	コロナ感染の様子を見ながら、地域の行事への参加や、ボランティアさんの受け入れを進めていきます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	一人暮らしの方が増えているので、地域に出向き必要な支援を行う。場合により、他のサービスを導入する。(食事、外出支援、後見など)	コロナ感染に注意しながら、近隣に散歩やドライブにでかける機会を多くもてるようにした。	地域の方との交流を具体的に書き、イメージを豊かにすることで利用者の生活の質や広がりが見えてくる。	コロナ感染の様子を見ながら、一人ひとりの利用者のご希望やご興味にこたえられるように、外出支援の機会を増やしていきます。

E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で、困難事例やアドバイスをいただく場面をもつ。	定期的を開催し、事業報告を行った。困難事例についてもお話しし、ご意見をいただくことができた。	ケアマネと協力しながら地域との連携を図る。自分たちだけでやろうとしないで多職種との連携を取る。	地域や多職種と連携を取る。
F. 事業所の 防災・災害対策	事業継続計画の作成に向け、推進委員さんのご意見もいただく。	防災機器の点検や避難訓練を定期的に行い、いざというときに備えました。	コロナ禍で地域の防災訓練は実施されなかった。	災害時の対応については、職員間での共通理解に努めるとともに、訓練を適切に行い、いざという時に備える。設備や機器の点検を確実に行う。